

(2) 公民館部会 (参加者 32 名 6 班)

① 事例発表：深川中学校区 (長門市)、秋穂中学校区 (山口市)

② 指導助言：指導助言者 浜田市立周布公民館 館長

○ 公民館としての学校支援の在り方

- ・公民館によるコーディネートは大切である。
- ・生涯学習グループの学習成果を学校の授業に活かす。
- ・周布公民館では、年間30日学校へ出かけている。
- ・学校支援ボランティア同士の意見交換会を本年から実施している。



○ 学校と公民館の連携の重要性

- ・学校と公民館で一緒になって1年間の行事予定を作成することが必要。
- ・公民館職員が気軽に学校に行ったり、教員が気軽に公民館に立ち寄りやすることが大切。



(3) 学校支援部会 (参加者 68 名 15 班)

① 事例発表：由宇中学校区 (岩国市)、大殿中学校区 (山口市)

② 指導助言：指導助言者 横浜市立東山田中学校コミュニティハウス 館長

- 中学校内にあるコミュニティハウスの館長をしている。
- 大人も子どもも一緒につどい、一緒に学ぶ場である。
- アメリカでの経験をもとにコミュニティカレンダーを作成した。小・中学校4校と地域の予定を入れたもの。
- コーディネーターの気配りが大切である
- コーディネーターは地域に出て行き、しゃべることを楽しんでほしい。
- ボランティアがボランティアを呼ぶなど、人が人をつないでいくので、コーディネーターが間を取りもつことが大切である。
- ボランティアの研修をしっかりと行い、学校に入ってもらうことによって学校も安心する。



6 アンケート結果から

第1回の研修会での参加者の意見をもとに、ワールド・カフェの手法を取り入れ、協議中心の研修会を実施した。参加者の声には、「様々な視点や意見にふれ、解決の方向性が共有できた。」「講師 (特に、学校運営協議会部会) の話が具体的でとても分かりやすく、今後の意欲付けとなった。」などがあつた。また、事例発表が伸びたため、協議の時間が短くなり、もっと協議をしたかったという御意見をいただいた。